

第3章 史跡の概要

第1節 指定に至る経緯

(1) 発掘調査の経緯

当町における西南戦争に関連する遺跡は、周知の遺跡として地域住民によってこれまで保存と活用がなされてきた。記録や調査研究としては、昭和56(1981)年発行の『歴史への招待』作成時に、町内における貴重な聞き取り調査が行われている。この他、平成7(1995)年度発行の『玉東町史』編纂の際には膨大な関連史料の収集がなされ、文献史料の調査研究、報告が行われている。

平成7年「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準」の一部改正に伴い、文化庁文化財部記念物課によって設置された「近代遺跡の調査等に関する検討会」によって、幕末・開国頃から第二次世界大戦終結頃を対象とした全国的な近代遺跡の調査が行われた。そこで、約6,000件の報告の中から詳細調査対象の戦争遺跡50件として「西南戦争遺跡群」がリストアップされた(平成14(2002)年7月)。そのような中、当町では平成19年に計画された半高山公園整備計画が発端となり、西南戦争遺跡の価値付けを行うことが急務となった。そこで同年の確認調査を踏まえ、当町に所在する関連遺跡の学術的価値付けを行い国指定史跡とすることを目的に、平成21(2009)年4月に玉東町西南戦争関連遺跡群調査検討委員会を組織し、本格的な発掘調査に着手した。また、同年8月には植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会を立ち上げ、旧植木町(旧鹿本郡植木町、現熊本市北区植木町)と西南戦争遺跡群の国指定史跡に向けての取り組みを開始した。

調査の目的は、明確な遺構や遺物の検出により具体的な戦闘の内容を明らかにし、遺跡を将来にわたって保護することである。調査に当たっては、調査検討委員会の審議、指導を得て行い、また文化庁、熊本県文化課に度重なる指導・助言を賜った。

平成23(2011)年度第1回調査検討委員会で、国指定史跡の範囲について協議がなされ、半高山・吉次峠戦跡、横平山戦跡、二俣瓜生田官軍砲台跡、正念寺、徳成寺、高月官軍墓地、宇蘇浦官軍墓地の7箇所を国指定史跡とすることを目標に調査を進めることとなった。調査、報告の経緯については以下に記す。

平成20(2008)年度	半高山・吉次峠戦跡確認調査
平成21(2009)年度	半高山・吉次峠戦跡発掘調査(1次) 横平山戦跡発掘調査(1次)
平成22(2010)年度	二俣瓜生田官軍砲台跡発掘調査
平成23(2011)年度	二俣古閑官軍砲台跡発掘調査 横平山戦跡発掘調査(2次) 正念寺・徳成寺調査 高月・宇蘇浦官軍墓地測量調査 半高山・吉次峠戦跡発掘調査(2次) 二俣本営出張所跡発掘調査
平成24(2012)年度	横平山戦跡、半高山・吉次峠戦跡遺物レプリカ埋納作業 『玉東町西南戦争遺跡群調査総合報告書』作成作業

平成25(2013)年度	正念寺山門測量調査 『玉東町西南戦争遺跡群調査総合報告書』刊行 立岩薩軍砲台跡発掘調査
平成26(2014)年度	篠原国幹戦没地発掘調査 七ツ松官軍砲台跡発掘調査

(2) 指定の経緯

以上の発掘調査の成果を踏まえ、平成24(2012)年7月24日に熊本市とともに、玉東町域の下記の遺跡の指定について意見具申書を文化庁に提出した。その結果、同年11月に国の文化審議会より答申があり、平成25(2013)年3月27日付けで正式に「史跡 西南戦争遺跡」として史跡指定を受けるに至った。

- ① はんこうやま きちじとうげこせんじょう
半高山・吉次峠古戦場
- ② よこひらやまこせんじょう
横平山古戦場
- ③-1 ふたまたうりゅうだかんぐんほうだいあと
二俣瓜生田官軍砲台跡
- ③-2 ふたまた こ が かんぐんほうだいあと
二俣古閑官軍砲台跡
- ④ しょうねんじ さんもん
正念寺 (山門)
- ⑤ たかつきかんぐん ぼ ち
高月官軍墓地
- ⑥ う そうらんぐん ぼ ち
宇蘇浦官軍墓地

第2節 指定の状況

(1) 指定内容

名 称	西南戦争遺跡
指定日	平成25(2013)年3月27日 (文部科学省告示第39号)
基 準	特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 (昭和26(1953)年文化財保護委員会告示第2号) 史跡の部二による
面 積	193,616.78㎡ (内、玉東町域165,486.78㎡)
所在地	(玉東町域分) 熊本県玉名郡玉東町大字原倉字荒強当 (2334番1、2334番2、2334番3、2334番4、2334番6、2334番7、2334番9、2334番10、2334番11、2334番12、2334番14、2334番15、2334番16、2334番17、2334番18、2334番19、2334番51、2334番52のうち実測49.00平方メートル、2334番56) 同 大字原倉字半高 (1111番26、1111番27、1111番30、1111番31、1111番32、1111番33、1111番35、1112番34、1112番35、1112番37、1112番38、1112番40、1112番41、1112番42、1112番43、1112番44、1112番45、1112番47、1112番49、1112番50、1112番51、1112番52、1112番53、1112番54、1112番55、1112番56、1112番58、1112番64、1112番73、1112番77) 同 大字二俣字井川 (2315番3、2321番1、2323番) 同 大字二俣字峠 (2430番、2432番1、2443番1、2445番7、2445番8、2445番11、2445番12、2445番15、2447番、2448番、2450番、2451番1、2451番2、2452番)

同 大字二俣字古閑

(1915番、1917番1、1918番1、1921番3)

同 大字木葉字高月 (680番地)

同 大字木葉字宇蘇 (903番地1)

同 大字木葉字土生野

(750番地1のうち実測75.00平方メートル：右の地域に介在する道路敷、熊本県玉名郡玉東町大字原倉字荒強当2334番7と熊本県熊本市北区植木町大字木留字葛山1482番地2に挟まれ熊本県玉名郡玉東町大字原倉字荒強当2334番56と熊本県熊本市北区植木町大字木留字葛山1479番に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字荒強当2334番15と同2334番18に挟まれ同2334番9と同2334番38に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番37と同1112番44に挟まれ同1112番33と同1112番34に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番31と同1112番35に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番34と同1112番73に挟まれ同1112番62と同1112番64に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番58と同1112番64に挟まれ同1112番58と同1112番72に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番57と同1112番72に挟まれ同1112番43と同1112番58に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番56と同1112番57に挟まれ同1112番49と熊本県熊本市北区植木町大字円台寺字大迫1184番3に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字原倉字半高1112番51と同1112番55に挟まれ同1111番35と熊本県熊本市北区植木町大字円台寺字大迫1183番2に挟まれるまでの道路敷、同玉東町大字二股字峠2451番2と同2452番に挟まれ同2430番と同2445番16に挟まれるまでの道路敷を含む。

備考：一筆の土地及び道路敷のうち一部のみを指定するものについては、地域に関する実測図を熊本県教育委員会、熊本市教育委員会及び玉東町教育委員会に備え置いて縦覧に供する。）

(2) 指定理由文

西南戦争遺跡は、明治10年（1877）、鹿児島士族層を中心とする士族が政府に反旗を翻し、九州中南部一帯を舞台に行われた国内最大・最後の内戦に関わる遺跡である。明治6年の征韓論の政変以後、一部士族が佐賀・熊本・秋^{あきづき}月・萩で反乱を起こしたが、これらの反乱の最後として、明治10年2月、私学校生徒等が西郷隆盛を首領として蜂起し、熊本等の士族や徴募兵も呼応した。西郷軍は、熊本城の政府軍との攻防戦、田原坂の激戦で敗北し、大分・宮崎・鹿児島を敗走、9月24日に西郷が城山で自刃して収束した。明治政府が近代国家としての権力基盤を確立するなど、日本史上、著名な戦争である。

このうち、豊前街道^{ぶぜんかいどう}や三池往還^{みいけおうかん}・吉次往還^{きちじおうかん}が通る熊本県北部の熊本市植木・玉東町地域では、熊本城援軍のため南下する政府軍と、これを阻止しようとする西郷軍が、2月下旬から4月初にかけて激突した。政府軍は本^{この}葉^はに本営を設置し、3月4日より、西郷軍が防塁等を築いて籠^たも^ぼる田原坂に侵攻を開始した。政府軍は二度に及ぶ総攻撃をかけたが成果が上らず、田原坂の西側の二俣^{ふたまた}台地に砲台を築き、側面から砲撃を加えて西郷軍に打撃を与え、3月20日の総攻撃でようやく田原坂を陥落させた。この間、田原坂を見渡すことができ、二俣砲台等に近い横^{よこ}平^{ひら}山^{やま}（標高144メートル）は、両軍による争奪の場となり、吉次往還では、三ノ岳^{はんこうやま}と半高山^{はんこうやま}に挟まれた吉次峠^{きちじとうげ}において両軍の激戦が行われた。田原坂陥落後も植木では市街戦が続いたが、ついに西郷軍は敗退、4月14日には政府軍が熊本城に入城し、西郷軍は人吉に落ち延びた。戦時、政府軍は負傷者を収容し、治療する施設として正念寺^{しょうねんじ}等^{だいほうたいしよ}に大綱^{たいこう}帯^{たい}所^{しよ}を設置した。戦没した政府軍兵士等は周辺に仮埋葬され、その後高月^{たかつき}や宇蘇^{うそ}浦^{うら}等の官軍^{かんぐん}

墓地に埋葬された。明治13年には、陸軍省によって、現在の田原坂公園内に崇烈碑すうれつひが建立された。

今回指定を行うのは、田原坂古戦場（熊本市域）、二俣砲台跡、横平山古戦場、半高山・吉次峠古戦場、正念寺、高月官軍墓地、宇蘇浦官軍墓地（以上、玉東町域）である。玉東町及び植木町（現・熊本市）教育委員会では、平成21年度から24年度にかけて発掘調査、文献調査等を実施した。田原坂古戦場は、田原坂本道（延長約1,160メートル）を中心とする戦場跡である。田原坂入口の中谷川に架かる豊岡とよおかの眼鏡橋は、享和2年（1802）築造の石製の単一アーチ橋である。坂は一ノ坂口で標高25.9メートル、三ノ坂上で106.9メートル、道幅4メートル程度であり、旧状を良く残し、道は幾度も屈曲し、昼なお暗く、両壁が高い凹道が続く場所がある。三ノ坂上は戦争当時、西郷軍が布陣した場所である。現在、田原坂公園として整備されているが、地形の改変を受けていない部分も多く、当時の陣地構築状況等を知る上で重要である。また、崇烈碑は石灰岩製で、台座を含めた総高は6メートルである。撰文・篆額ありすがわのみやたるひとしんのうは征討総督・有栖川宮熾仁親王で、碑文には戦争の経緯、田原坂激戦の様子が記されている。

二俣うりゆうだの瓜生田・古閑砲台跡こがは、田原坂と谷を挟んだ西側の台地上に所在する。金属探知機を用いた表面探査の結果、大砲を発射させる際に使用する摩擦管等が出土した。瓜生田砲台では、砲台跡の硬化面や大砲の轍と考えられる遺構、廃棄土坑等を検出した。横平山古戦場では、山の北側斜面一帯で銃弾や薬莢等が多数出土した。山頂ざんどうあとの塹壕跡からは多数の薬莢が出土し、政府軍・西郷軍の戦闘の具体相が明らかとなった。半高山・吉次峠古戦場においても銃弾・薬莢・砲弾等の遺物を多数確認し、山頂部では戦闘に伴い築造された土坑状の掘り込み・盛土遺構を検出した。

正念寺は、承応3年（1654）創建とされる真宗寺院である。戦時、政府軍の大綱帯所として負傷者の治療が行われ、境内に戦死者の仮埋葬も行われた。本堂・庫裏等は建て替えられ旧状を留めていないが、戦争当時の山門が三池往還に面して現存し、銃弾の痕跡も残る。戦争の傷跡を留める大綱帯所の遺構として貴重である。

高月官軍墓地は、正念寺の西側、三池往還沿いに立地し、980柱を葬る墓地である。天草砂岩製の墓石に、玉東・植木地域で戦死した兵士階級、氏名、出身地、所属部隊、戦没地点を刻む。宇蘇浦官軍墓地は木葉山の中腹に位置し、399柱を葬る墓地である。基本的には高月墓地と同様であるが、安山岩製の墓石による警視局64柱の戦死者も含む。

このように、西南戦争遺跡は、我が国最後の内乱として、明治政府が近代国家としての権力基盤を確立するなど、日本史上著名な戦争に関わる遺跡である。発掘調査等によって、田原坂古戦場をはじめとする各遺構が良好に遺存することが確認された。近代の政治・軍事を知る上で重要である。よって、史跡に指定し保護を図ろうとするものである。

・出典『月刊文化財』平成25年2月号 文化庁文化財部監修

第3節 史跡の概要

① 半高山・吉次峠古戦場

田原坂、横平山と並ぶ激戦地の一つで、三ノ岳の尾根筋に設けられた西郷軍の陣地であり田原坂・横平山を北東方向、三ノ岳を南西方向に望む。現玉名市高瀬より熊本に至る吉次往還の道筋上、標高294mの半高山と三ノ岳の尾根の鞍部を吉次往還が通り、そこを吉次峠と呼ぶ。周辺は明治10(1877)2月後半から4月中旬の間、薩軍熊本隊の守備地となっており、記録では3月3日、4日と4月1日に政府軍による大規模な進撃が行われた後に、政府軍の占領下となった。

平成21(2009)年より行った調査では、半高山の西側16,330㎡と南側の斜面8,300㎡、吉次峠より南側の葛山の北斜面4,600㎡において遺物探査を行い、銃弾丸や砲弾破片等多くの遺物を検出した。

また、葛山側では発掘調査を行い、溝を確認した。溝からは、当時のものと思われる遺物が出土していないため時期と用途は不明である。半高山においても山頂部において土坑1基と盛土1カ所を確認したが、吉次峠公園同様、遺物が出土していないため、詳細は不明である。

一方、薬きょう等の発砲の痕跡を示す遺物は半高山山頂部の巨石の間において集中出土しており、これらが陣地として利用されたことが明らかとなった。また、山頂部よりやや下った標高290m付近に、様々な種類の薬きょう等が集中して出土しており、戦争における薩軍の軍備や具体的な発砲の状況が明らかになった。



図16 西南戦争直後の吉次峠と思われる古写真



図17 半高山・吉次峠古戦場遺物出土状況

② 横平山古戦場

横平山戦跡は、政府軍の出張所が置かれた二俣台地の南端に位置する標高144mの小高い山です。政府軍が二俣台地に進出する際、両軍の要衝の地である横平山をめぐって激しい争奪戦が行なわれた。特に明治10(1877)年3月15日、政府軍の警視局抜刀隊が投入され、両軍抜刀による激戦が行われたという記録が残っている。

平成21年度より行った発掘調査では、横平山山頂部及び北側斜面の8,680㎡を対象に遺物探査等の調査を行った。

山頂の堡塁跡は現在も目視できる遺構である。周辺からは戦闘で主に使用された金属製の薬きょうが多く出土しており、陣地として利用されていたと考えられる。この堡塁は、現在、山頂の公園部にわずかに残っているが、戦後すぐに作られた陣地図から判断すると、山を東西に横断するものだったと推測される。



図18 横平山山頂部の堡塁跡(西から)



図19 横平山古戦場遺物出土状況

また、山頂部より北側にやや下った標高130m地点でも、同様の金属薬きょうや各種銃弾丸の未使用弾、弾薬箱に使われたと思われる木ネジの集中が確認されており、陣地だったことが推測される。この他、横平山北側斜面の中腹では、西郷軍戦死者の仮埋葬の跡と考えられる土坑が確認された。

山の北側斜面地一帯からは、小銃弾丸476点、薬きょう111点等、刀の鏢1点等が発見されており、激しい戦闘の状況をうかがい知ることができる。

③-1 二俣瓜生田官軍砲台跡

田原坂に布陣する西郷軍攻撃の為に玉東町二俣台地に築かれたのが、政府軍の野戦砲座である。二俣台地は田原坂を有する植木台地と併行して南北方向に伸びる丘陵地で、船底と呼ばれる低地を間に挟み、田原坂の西側に位置している。標高約100mで、田原坂（三の坂）との距離は1km未満である。記録では上木葉本営の出張所と三ヶ所の砲座が築かれ、明治10(1877)年3月4日から3月20日まで政府軍の砲兵が布陣し、田原坂一帯を攻撃したといわれている。



図20 戦争直後に撮影されたと思われる古写真
(熊本城顕彰会蔵)

瓜生田官軍砲台跡は、三つの砲座の内、左翼に位置する砲座である。砲座推定地である方形の平地は、現在は果樹園等に利用

されている。発掘調査では、平地を中心に2,700m²の範囲で遺物探査等発掘調査を実施した。調査の結果、大砲の発射に使用される摩擦火管という銅管が15点出土し、摩擦管の集中区に砲座の痕跡と思われる遺構が検出された。遺構は、現地表面より20cm程下位で確認され、①4m四方の不定形の硬化面、②硬化面に接する幅40cm、深さ50cm程度の溝、③約300cm×130cmの楕円形の土坑2基、硬化面に接続する形で④東西方向に並行して10m程伸びる幅16cm程度の2条の細い溝で構成される。溝の中心軸の間隔は約84cm、内間隔66～78cmで、戦争で使用された四斤山砲の車輪の跡と推測される。

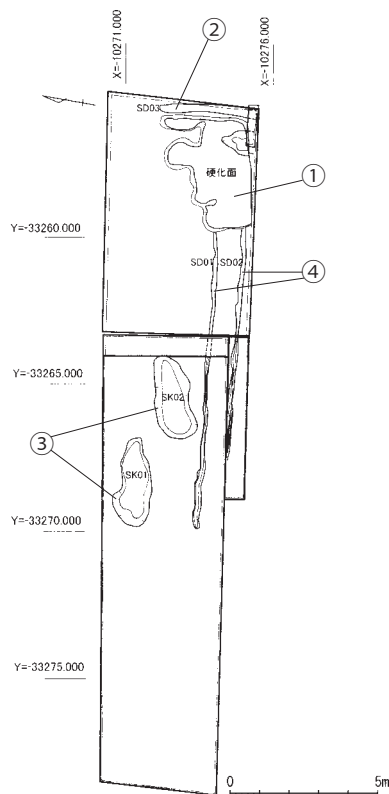


図21 二俣瓜生田砲台跡遺構配置図



図22 二俣瓜生田官軍砲台跡発掘調査状況(西から)

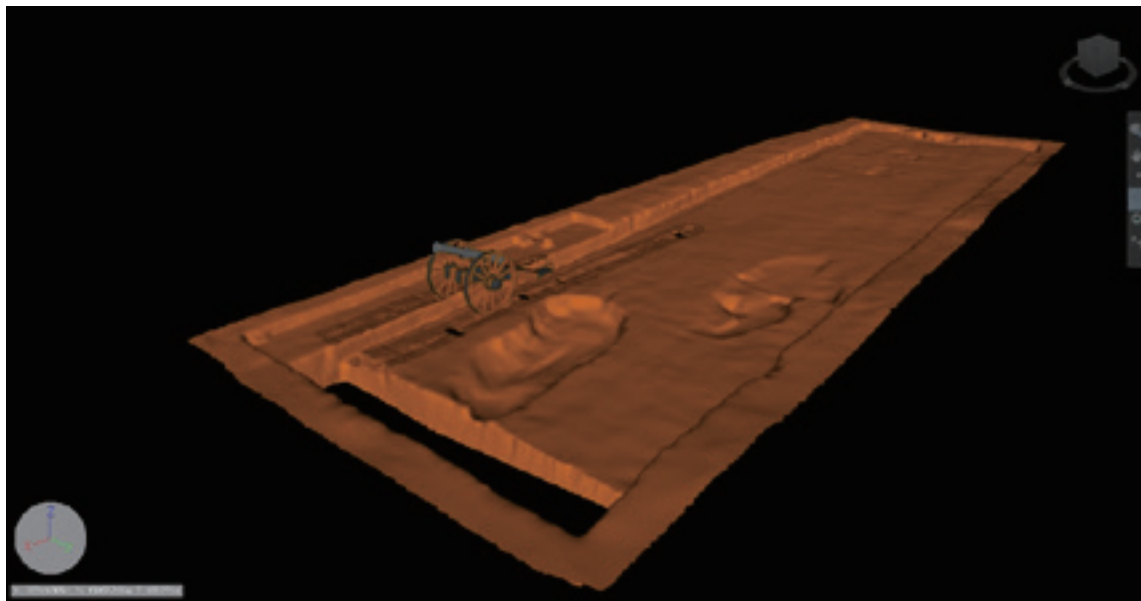


図23 二俣瓜生田官軍砲台跡発掘調査 3D 測量図

③-2 二俣古閑官軍砲台跡

二俣官軍砲台の右翼をなしたのが、瓜生田より南に位置する古閑の砲座である。現在も「台場」という地名で呼ばれており、記録によると、戦況が移るにつれて増築されたもののようだ。砲座推定地は瓜生田同様、現在は果樹園として利用されている。この推定地5,840㎡を対象に遺物探査を中心とした発掘調査を行った。

調査の結果、摩擦火管40点、小銃弾5点、スナイドル薬きょう4点、政府軍制服のボタン1点、制服に使われる釣り受け1点、蹄鉄1点等、政府軍に関連する遺物が多く検出された。

今回の調査では遺構の検出は行なっていないが、戦争直後に撮影された古写真でも当時と地形がほぼ変化していないことが明らかであることから、大きな土地の改変を受けず、瓜生田の砲座と同様の遺構が地下に存在すると推定される。



図24 戦争直後に撮影された二俣古閑官軍砲台跡
(熊本城顕彰会蔵)



図25 二俣古閑官軍砲台跡から田原坂を望む
(南西から)

④ 正念寺

玉東町には、当時政府軍の病院として利用されたといわれる寺院が二つ現存している。記録には、「大綱帯所」、官軍墓地の墓石には「木葉病院」とされている。その内の一つ、正念寺については「土生野」の寺として明確な記載があり、当時利用されていたことは間違いないと考えられる。また、正念寺の境内には、戦闘当初の遺体が埋葬されたという記録も残っている。

正念寺の本堂は、残念ながら焼失して残っていないが、山門部分は建築の技術から文政6(1823)年以前に建てられたことが確認されており、西南戦争時の鉛の銃弾2点や貫通痕も多く残存していることから、貴重な遺構として指定を受けた。



図26 正念寺山門(南から)

⑤ 高月官軍墓地

西南戦争に関する政府軍の墓地、いわゆる「官軍墓地」は全国で50箇所以上確認されており、そのほとんどは戦場となった九州各地に所在する。

それら西南戦争官軍墓地の中でも、残存する最大のものが、980基の墓石が並ぶ高月官軍墓地である。

戦闘当初、戦死者は正念寺の境内に葬られていたが、日々戦死者が増加し境内地に埋葬できなくなったため、「高月原」の地が墓地として選定された。当初は中隊ごとに木製の墓標が建てられていたが、明治11(1878)年に現在の墓石へと整備された。



図27 高月官軍墓地全景(北から)

⑥ 宇蘇浦官軍墓地

多数を占める陸軍の墓石は、四角柱を呈し、規格性があり、階級ごとに大きさが異なる。また、天草の砂岩が利用され、天草の下浦石工が関わったものと考えられている。

宇蘇浦官軍墓地には399基の墓石が並ぶが、その内64基は、警視隊のもので、内務省によって整備された。墓石は陸軍同様四角柱だが、先端部が楕形になっており、熊本市内でとれる島崎石という安山岩が利用されている。



図28 宇蘇浦官軍墓地

第4節 指定範囲における土地利用状況及び所有者の状況

指定面積地内の地目別面積の内訳、各遺跡の所有者の状況は表13のとおりである。(平成27(2015)年12月末時点)

① 半高山・吉次峠古戦場

平成26年度より公有地化を進め、現在、山頂部の公園地及び原地形が残ると思われる山の西側斜面を含め約4割は公有地となっている。地目別にみると、そのほとんどが畑であり、果樹栽培が行われている。

② 横平山古戦場

山頂部塹壕部分を含む公園は雑種地で公有地であるが、調査を行い、当時の遺物や遺構が良好に残存している北側斜面の山林地は民有地のままである。指定面積の半分は畑であり、果樹栽培が行われている。平成28年度より一部公有地化を行う。

③-1 二俣瓜生田官軍砲台跡

平成25年度より公有地化を進め、平成27年度に全ての筆の公有地が終了した。

③-2 二俣古閑官軍砲台跡

現在、すべて民有地であり、地目は畑で、そのほとんどで果樹栽培が行われている。平成28年度より一部公有地化を行う予定である。

④ 正念寺

史跡指定された山門部分は境内地であり、正念寺の所有となっている。

⑤ 高月官軍墓地・⑥ 宇蘇浦官軍墓地

地目は墓地であり、大蔵省南九州財務局の所有である。現在、玉東町が無償貸付を受けている。

表13 指定範囲における地目別面積・所有者の状況一覧

遺跡名	地目別面積の内訳											所有の状況		合 計
	山 林	公 園	畑	原 野	道 公 路 衆 用	里 道	宅 地	田	雑 種 地	墓 地	境 内 地	公 有 地	民 有 地	
① 半高山・ 吉次峠古戦場	0.00	4,277.00	77,199.00	16,787.00	2,724.00	7,370.00	472.32	0.00	0.00	0.00	0.00	58,369.32	55,460.00	108,829.32
	0%	4%	71%	15%	2%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	49.04%	50.96%	100%
	0.00	1.00	42.00	1.00	3.00	19.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	41.00	27.00	68.00
② 横平山古戦場	14,399.00	0.00	18,618.00	0.00	0.00	1,363.00	0.00	0.00	3,289.00	0.00	0.00	4,652.00	33,017.00	37,669.00
	38%	0%	49%	0%	0%	4%	0%	0%	9%	0%	0%	12.35%	87.65%	100%
	9.00	0.00	6.00	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	6.00	15.00	21.00
③-1 二俣瓜生田 官軍砲台跡	0.00	0.00	8,642.46	0.00	0.00	0.00	0.00	287.00	0.00	0.00	0.00	8,929.46	0.00	8,929.46
	0%	0%	97%	0%	0%	0%	0%	321%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	0.00	0.00	6.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	7.00	0.00	7.00
③-2 二俣古閑 官軍砲台跡	0.00	0.00	5,962.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5,962.00	5,962.00
	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%
	0.00	0.00	6.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.00	6.00
④ 正念寺	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	75.00	0.00	75.00	75.00
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	100%
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	1.00
⑤ 高月 官軍墓地	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,304.00	0.00	2,304.00	0.00	2,304.00
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	100%
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00
⑥ 宇蘇浦 官軍墓地	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1,718.00	0.00	1,718.00	0.00	1,718.00
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	100%
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00
合 計	14,399.00	4,277.00	110,421.46	16,787.00	2,724.00	8,733.00	472.32	287.00	3,289.00	4,022.00	75.00	70,972.78	94,514.00	165,486.78
	38%	4%	317%	15%	2%	10%	0%	321%	9%	200%	100%	42.89%	57.11%	100%
	9.00	1.00	60.00	1.00	4.00	23.00	1.00	1.00	2.00	2.00	1.00	56.00	49.00	105.00

表の見方 上段：面積(m²)
中段：遺跡ごとに占める面積の割合
下段：筆数



図29 半高山・吉次峠古戦場 史跡指定範囲の土地利用(左図)及び土地所有(右図)状況図

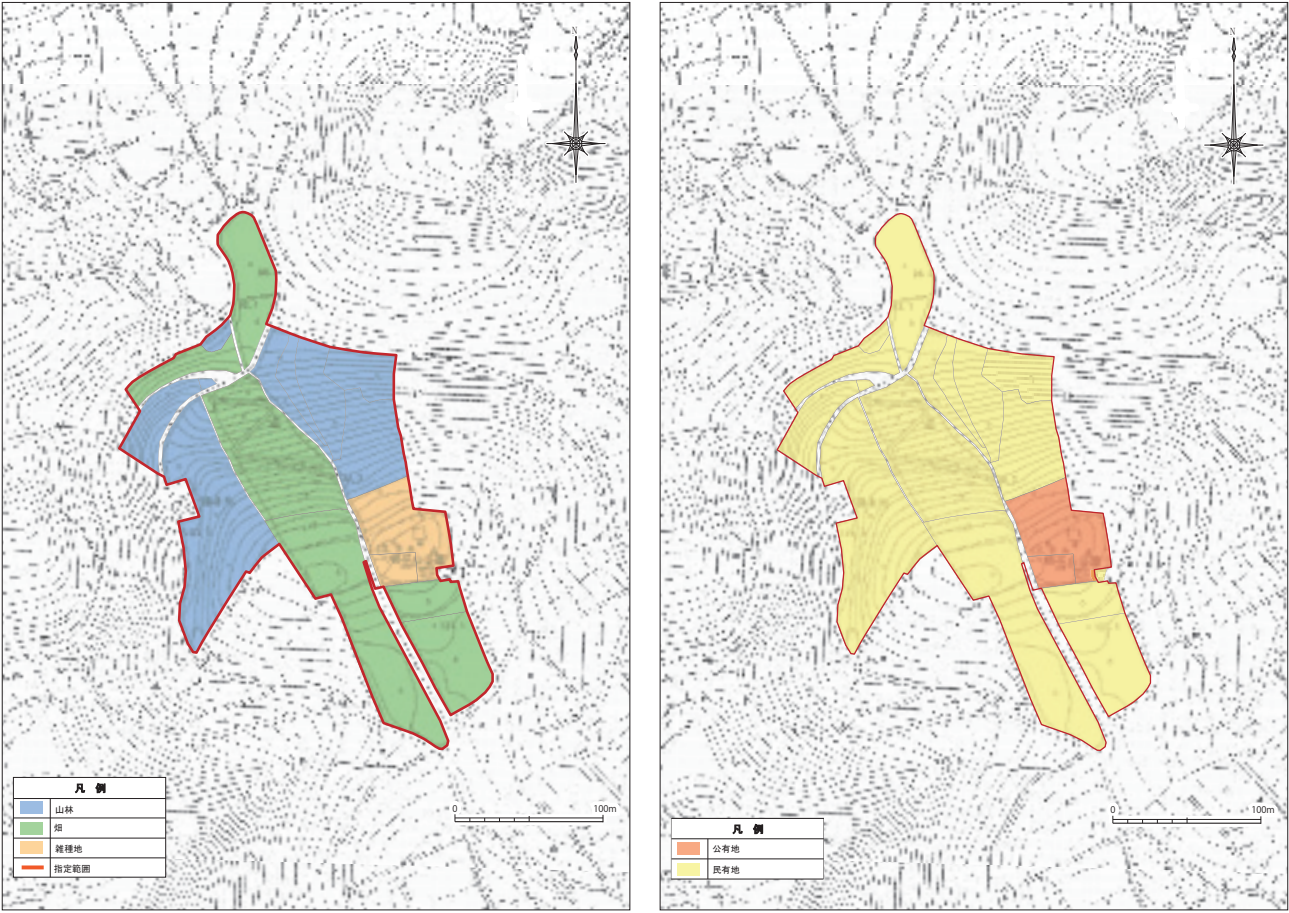


図30 横平山古戦場 史跡指定範囲の土地利用(左図)及び土地所有(右図)状況図



図31 二俣官軍砲台跡 史跡指定範囲の土地利用(左図)及び土地所有(右図)状況図

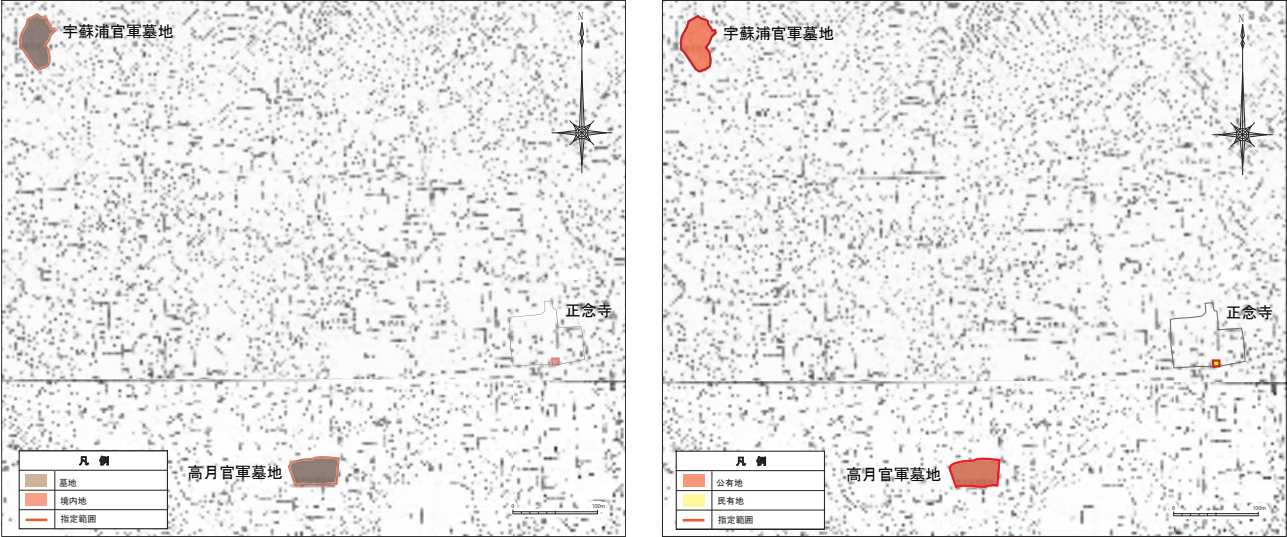


図32 正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地 史跡指定範囲の土地利用(左図)及び土地所有(右図)状況図